

## 国立大学改革強化推進補助金 国立大学大学間連携等支援事業〔総合支援型〕 成果報告書

事業名称：国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築

事業実施期間：2012年度～2017年度（6年間）

事業実施校：（代表大学）帯広畜産大学  
（連携大学）北海道大学  
山口大学  
鹿児島大学

### 1. 事業の目的

---

本事業は、国際的・社会的にリーダーとして活躍する獣医師の養成、我が国の獣医学教育の水準の向上という観点から、2つの共同獣医学課程の一層の高度化に取組み、北日本と南日本の地域特性を生かした教育プログラムの開発と相互利用、国際認証の取得に向けた戦略的連携を推進するとともに、これを礎に、獣医学教育改革を先導することを目的としている。

### 2. 事業の概要

---

本事業は、獣医学教育改善のために共同教育課程を実施する国立大学4校が、EAEVE（European Association of Establishments for Veterinary Education：欧州獣医学教育機関協会）の欧州獣医学教育認証を指標として獣医学教育改善の目標である国際水準化を達成し、国際通用力のある獣医師の養成及び我が国の獣医学教育の水準向上を図る戦略的連携事業である。教育の国際通用力の向上、グローバル人材育成推進などの各大学の将来構想に則った種々の改革の推進を目指している。

また、各大学の強み・特色を生かした教育コンテンツの作成、実務教育の拠点形成、欧州協力大学による事前診断などの結果を踏まえた教育体制の不断の改善を実施することで、2020年度までにEAEVE認証を取得し、日本の獣医学教育改革を先導するとともに、我が国の獣医学教育課程の国際水準化を内外へ示すほか、欧州認証の取得過程において得られたノウハウや実績などをもとに、アジア地域における獣医学教育の高度化及び評価基準の構築を牽引していくものである。

### 3. 取組概要・成果目標及び達成指標

---

## 【取組①】欧州認証取得に向けての調査・研究、事前診断などの実施

### 成果目標

EAEVE の欧州獣医学教育認証を確実に取得するため、2017 年度に実施する CV (Consultative Visitation : 公式事前診断) において高評価を得る。

### 達成指標

- ① 2014 年度～2016 年度に EAEVE 認証取得大学の協力の下で実施した非公式事前診断において指摘された事項 (ポリクリ時間数、診療頭数、病理解剖数の不足など) を改善し、教育環境を充実する。
- ② 2016 年度の EAEVE の評価基準変更に対応すべく、教育の質保証体制を整備する。
- ③ 公式事前診断において高評価を得て、容易な改善による認証取得に目処を立てる。

## 【取組②】教育コンテンツの作成、実習教育の拠点形成

### 成果目標

日本の獣医学教育の水準向上に貢献するため、各大学でそれぞれの特性を生かした教育コンテンツを作成し、国内の獣医系大学への提供を開始する。また、先進的な教育プログラム、教育設備などを活用した実習教育を、他の獣医系大学の学生や地域の獣医師などに提供する。

### 達成指標

- ① 4 大学で作成・共有する教育コンテンツ数を増加させる。また、作成した教育コンテンツを公開し、国内の獣医系大学へ提供する。
- ② 先進的かつ実践的な教育施設を活用し、リカレント教育など学外への実習教育を充実させることで、獣医学教育及び畜産業の振興に役立てる。

## 4. 事業の実施状況及び実績・成果

### 【取組①】欧州認証取得に向けての調査・研究、事前診断などの実施

2017 年 7 月に北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程が、同年 10 月に山口大学・鹿児島大学共同獣医学部が CV を受審した。その結果、改善が容易な指摘に留まり、改善後直ちに FV (Full Visitation : 公式診断) を受けるべきとの意見をいただいたため、当初予定から 1 年前倒しの 2019 年度に FV を受診することを決定した。

### 達成指標の状況

- ① 非公式事前診断における指摘された事項 (ポリクリ時間数、診療頭数、病理解剖数の不足など) の改善

- ・診療頭数 : 2014 年度 24,321 頭→2017 年度 53,080 頭
  - ・病理解剖数 : 2014 年度 437 件→2017 年度 898 件
  - ・ポリクリ時間数 : 2012 年度 4 週→2017 年度 12 週 (北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程)、20 週 (山口大学)、50 週 (鹿児島大学)
- ② EAEVE の評価基準の変更に対応すべく、教育の質保証体制の整備
- ・2016 年に変更された EAEVE の獣医学教育評価基準に対応するため、QA 委員会を設置するなど、Quality Assurance (教育の質保証) の改善を実施
  - ・獣医学教育カリキュラム構築への学生及びステークホルダー (地元獣医師会、地方自治体、共済組合など) が参画する組織を構築し、定期的に意見交換を実施
- ③ 公式事前診断における高評価の取得、認証取得への目処
- ・2017 年度に CV を受審した結果、高評価を得たため FV を 1 年前倒して受審することを決定

## 【取組②】教育コンテンツの作成、実習教育の拠点形成

各大学において動画やシミュレータなどの教育コンテンツ数を増加させ、スキルラボを充実させた。その結果、診療前の自己学習や OSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床能力試験) 対策として学生の利用が増加した。また、実習に用いる動物数の減少や動物への負荷軽減にも繋がり、動物福祉が向上している。これらの教育コンテンツのうち、eラーニング教材など 44 点を 2018 年 3 月から他大学へ公開、提供を開始した。また、卒後教育として、外部に対しても様々なセミナーなどを開催している。その回数及び参加者数は年々増加し、地域の獣医学教育及び畜産業の振興に役立てている。

### 達成指標の状況

- ① 4 大学で作成・共有する教育コンテンツの作成。作成した教育コンテンツの公開、国内獣医系大学への提供
- ・学内用教育コンテンツ数 : 2014 年度 2,444 点→2017 年度 5,075 点
  - ・うち公開コンテンツ数 : 2014 年度 0 点→2017 年度 44 点
- ② リカレント教育など学外への実習教育の提供数、参加者数
- ・開催回数 : 2014 年度 26 回→2017 年度 34 回
  - ・参加者数 : 2014 年度 684 人→2017 年度 1,024 人

## 5. 今後の予定・展望

欧州獣医学教育認証については、2019 年 6 月に山口大学・鹿児島大学共同獣医学部が、7 月に北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程が FV を受審し、2019 年度中の認証取得を目指す。

獣医学教育認証制度については、①日本においては、引き続き教育コンテンツ及び実習教育の提供を続けるとともに、欧州認証に関する情報も積極的に公開する。

また、全国大学獣医学関係代表者協議会及び国公立獣医学協議会において、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの充実などに関する提案・助言を行うとともに、**Day one competences** をディプロマポリシーとすることを推奨する。一方で国内認証についても、大学基準協会の獣医学教育評価委員として、同協会の評価体制、評価システムの向上のための検討に参画する。なお、山口大学・鹿児島大学共同獣医学部は 2018 年度に大学基準協会による評価を受審済みで、今後の評価手法の改善に活用する。②アジアにおいては、2018 年に開催された第 17 回 ASIAN ASSOCIATION OF VETERINARY SCHOOLS (AAVS) 年次総会において、アジアの獣医学教育評価について協議し、今後も引き続き検討する。また、アジア地域への国際水準の獣医学教育展開の第一段階として、2018 年度からインドネシアやタイの獣医系大学と連携して国際シンポジウムの開催などを行った。これらの活動を通じて、今後日本及びアジアの獣医学教育の質的充実に努めるとともに、AAVS などにおける認証制度構築を目指す。